

# イスラエル軍事刑務所におけるパレスチナ人拘留者の性的拷問 - 西側が無視する虐待の記録

友人が死ぬことを祈るなんて想像できますか？ 昨日、ガザの友人がまさにそれをしてしていると私に話しました。彼の友人が末期疾患だからではなく、イスラエルの軍事刑務所に拘留され、あまりにも激しく拷問されているため、死が慈悲のように思えるからです。ほとんどの人と同じく、性的拷問について話すのは難しいと感じます。それは本能的に目を背けたくなる醜い話題です。しかし、目を背けることは問題の一部です。パレスチナ人がこれらの刑務所で耐えていることについての沈黙は、加害者を守るだけです。だから私はその沈黙を破ります。

何十年もの間、パレスチナ人囚人はイスラエル軍事刑務所内での性的拷問と虐待について述べてきました。これらの証言は、男性、女性、子供から、ガザ、ヨルダン川西岸、エルサレムから、そして1967年以降のイスラエルの拘留政策のすべての時代から寄せられています。釈放直前に虐待が起きた場合、独立した医師によって確認されたり、**B'Tselem**、**アムネスティ・インターナショナル**、**国連**などの人権団体によって記録されたりすることがあります。2024年8月、国連の専門家は、イスラエル拘留中のパレスチナ人に対する**広範な性的暴行とレイプの確証された報告**を受け取ったと述べ、これが体系的なパターンの一部であると呼びました。

西側メディアはこれらの報告に持続的な関心をほとんど示していません。一方、イスラエル当局が2023年10月7日にハマスによる集団レイプを主張したとき - 国連が独立して調査することを阻止され、フォレンジック証拠が提出されていない主張 - 西側メディアでは全面的な報道が行われ、主要な新聞のトップページに掲載され、国家元首からの非難が続きました。

## 裁判なしの拘留

イスラエル軍事刑務所にいるパレスチナ人のほとんどは、犯罪で有罪判決を受けていません。多くは起訴すらされていません。彼らは**行政拘留**の下で拘束されており、これは裁判なし、証拠を見ることなく、弁護士へのアクセスなし、家族との接触なしで投獄を可能にする植民地時代の規定です。国際赤十字委員会は、**Sde Teiman**、**Megiddo**、その他の施設へのアクセスを**2023年10月以前から拒否**されており、独立した監視のための重要な経路が排除されています。

軍事裁判所に達する数少ないケースでは、**99%以上の有罪率**があります。多くの拘留者は18歳未満で、なかには子供もいます。兵士、車両、監視塔の**方向**に石を投げることで - 何も当たらなくても - は投獄につながる可能性があります。他の場合、元拘留者が報告するように、「罪」は兵士が「あなたの顔が気に入らない」といった恣意的なものです。

## 性的拷問の方法

B'Tselem、アムネスティ・インターナショナル、国連、イスラエルの人権のための医師団、イスラエルにおける拷問反対公共委員会が収集した証言は、繰り返される手法を明らかにしています：

- 強制的な裸体と長期にわたる性的屈辱、時には他の拘留者や看守の前で。
- 物体によるレイプ：バトン、棒、金属棒、そしてあるケースでは消火器のホース。
- 性器への殴打：ブーツ、バトン、またはハンマーによる。
- 尋問中の性器への電撃。
- 犬によるソドミーと家族を巻き込んだ性的脅迫。

これらの攻撃は、足枷、目隠し、食料と衛生の剥奪、医療の拒否といった、より広範な非人道的な扱いの一部です。

## 事例研究：ガザの証言

2025年8月、ガザの友人が交換で最近釈放された囚人と話したことを説明しました。まだ拘留中の別の友について尋ねたとき、その男は言いました：「アッラーに彼の魂を取るように祈って - 彼の死を祈って。」

彼は理由を説明しました。拘留者は裸にされました。兵士がペンからインクの管を取り出し、空の筒を彼のペニスに挿入し、木製のハンマーで叩きました。この方法は想像を絶する痛みを引き起こし、尿道を裂く可能性が高く、重度の内出血と感染症のリスクを冒しますが、外部の目に見える傷はほとんど残しません。これは、人権監視者や医師による後の検出を避けるために設計された拷問の種類です。

同じ証人は、2週間着替えずに服の中で排尿と排便を強制されたことを説明しました - 尊厳と希望を奪うための劣化の形態です。

## 事例研究：2024年Sde Teimanレイプビデオ

2024年7月末、イスラエルのテレビチャンネル12は、**Sde Teiman**軍事刑務所から漏洩した監視映像を放送しました。ビデオは、IDF兵士が縛られたパレスチナ人拘留者を集団レイプし、軍用犬が立ち会う様子を示していました。被害者は壊滅的な傷を負いました - **腸の破裂、肋骨の骨折、肺の損傷** - 数日間入院しました。Sde Teimanに戻された直後、彼は疑わしい状況で死亡しました。彼の死についての調査は開始されていません。

リーク後に10人の兵士が逮捕され、2025年2月に5人が起訴されました。逮捕は極右の抗議を引き起こし、クネセットでも行われました。リクードのMK **Hanoch Milwidsky** は兵士を擁護し、「もし彼がヌクバ（ハマスのエリート）なら、すべてが合法だ」と言いました。抗議者はSde TeimanとBeit Lid基地を襲撃し、兵士の釈放を要求し、なかにはパレスチナ人拘留者を「レイプする権利」を明確に求める者もいました。

政治的圧力の下、容疑者は数週間以内に釈放されました。主な被告、**Meir Ben-Shitrit** は、イスラエルのトークショーに出演し、共感的なメディアによって加害者ではなく英雄として描か

れました。被告に対する寛容さとその公の称賛は、責任の欠如を強調しました。

## 結論

パレスチナ人拘留者の性的拷問は異常ではなく、イスラエルの軍事拘留における長年にわたる記録されたパターンの一部です。それは、拘留者の尊厳を奪い、法的な救済を否定し、独立した監視の外で運営されるように設計されたシステム内で行われます。赤十字は最悪の施設への訪問を何年も禁止されています。人権を擁護すると主張する西側政府は、これらの犯罪をほとんど無視してきましたが、政治的に都合が良いときには根拠のない主張を増幅します。

Sde Teimanビデオは、生存者が何世代にもわたって語ってきたことを裏付ける稀な確固たる証拠でした。その後 - 「レイプする権利」を求める抗議、議会での加害者の擁護、被害者の調査なしの死 - は、こうした行為が容認されるだけでなく、一部の場で称賛される社会を示しています。

生存者にとって、傷は目に見えるか隠れているかにかかわらず、永続的です。死んだ者にとって、真実はしばしば彼らと一緒に埋もれます。そして、まだ投獄されている者にとって、正義の見込みは世界の関心と同じくらい遠いものです。

## 選択された参考文献と引用

**B'Tselem - 地獄へようこそ：拷問キャンプのネットワークとしてのイスラエル刑務所システム (2024年8月5日)**

「これらの証言は、非人道的な状況と虐待の一貫した政策を示しており、さまざまな程度の性的暴力の繰り返し使用が含まれます。」

完全な報告書PDF

**アムネスティ・インターナショナル - イスラエルはガザのパレスチナ人の集団的な非連絡拘留と拷問を終わらせなければならない (2024年7月18日)**

「パレスチナ人拘留者は、国際法の下でそのような行為の絶対的禁止に違反して、性的暴力を含む拷問やその他の虐待を受けています。」

報告書ページ

**国連OHCHR - イスラエル拘留中の広範な虐待、性的暴行、レイプの確証された報告 (2024年8月5日)**

「複数の情報源から信頼できる報告を受け取っており、拘留中の男性と女性に対する性的暴力が、拷問と戦争犯罪に相当する行為であると記述しています。」

国連プレスリリース

**イスラエルの人権のための医師団 - 拷問、飢餓、拘留中の死 (2025年2月)**

「虐待のパターンには、性的暴行と医療の拒否が含まれており、拘留施設での予防可能な死に寄与しています。」

PHRIページ